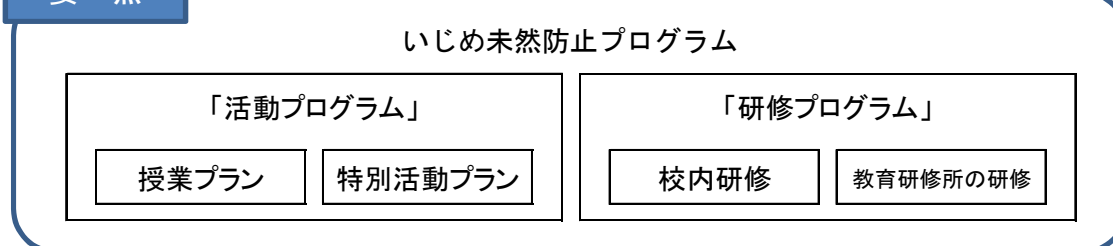


「いじめ未然防止プログラム」について

(3) 「いじめ未然防止プログラム」の利用にあたって

ア 利用の仕方

要 点



(7) 「いじめ未然防止プログラム」の構成

「いじめ未然防止プログラム」は「活動プログラム」と「研修プログラム」の2つから構成されています。

「活動プログラム」は「授業プラン」と「特別活動プラン」から成り、児童生徒に対して行う授業内容や学校全体の取組についてまとめています。

「研修プログラム」は「校内研修」と「教育研修所の研修」から成り、いじめ未然防止のために必要な知識や技能を、教員が習得するための研修を設定しています。第4章にこれらの研修内容等についてまとめています。

(イ) 授業プラン

授業プランは、11の資質・能力の向上を目的とした授業案です（表6）。より良い人間関係づくりに児童生徒が主体的に働きかける態度を育成することを目的としています。

向上が期待できる資質・能力別、発達段階別に授業が構成されています。クラスや児童生徒の状況に応じて、必要だと思われる資質・能力等によって選択、利用してください。また、示されている対象学年はあくまで目安ですので、発達段階に応じた工夫をすれば、他校種や他学年の授業案も利用できます。

(ウ) 特別活動プランの利用

特別活動プランは、授業プランによる授業や、行事、児童会や生徒会における活動等を相互に関連づけ、総合的な取組として実施するものです。学校やクラスの状況に応じて取組例をまとめています（表7）。

いじめを未然に防止するために重要な「クラス開き」、いじめが表面化しやすい「宿泊行事」や「学校行事」の他、「雰囲気が良くない」と感じたときの取組例を校種別に掲載しています。また、年間計画時に参考となる「特色ある取組」も併せて掲載しています。状況に合わせて利用してください。

「いじめ未然防止プログラム」について

表6 授業プラン一覧（育みたい資質・能力による選択）

校種		小学校			中学校			高等学校	特別支援学校
学年		低学年	中学年	高学年	1年生	2年生	3年生		
育 み た い 資 質 ・ 能 力	ストレス マネジメント 能力		「10秒呼吸法を 使ったストレス マネジメント」	「ご機嫌に過 ごすための工夫」	「ストレスマネ ジメント」		「自分の感情を 理解する」	「暴力について 考える1」	
	セルフ コントロール 能力		「おおらかな心 をもとう」	「頭にきたとき のより良い対 応」		「怒りのメカニ ズムを理解す る」		「体の感じを言 葉にしてみよ う」	これは、なんで しょう
	自尊感情・ 自己効力感	「自分の木」	「大切なから だ」			「私は私が好き です。なぜなら …」		「役割交換てが み」	買い物に行こう
	思いやり・ 他者理解		「私の大切な仲 間へ」	「友だちの良 いところ探し」	「あったか言 葉」			「暴力について 考える2」	「新入生歓迎会 を成功させよ う」
	コミュニケー ション能力	「うまく仲間 に入ろう」			「目指せ！ほっ こりクラス！」		「ダイヤモンド・ランキン グ」	「紙上での傾 聴・共感体験」	
	思いや考え の表現力			「適切な表現方 法」			様々な自己表現 を知ろう	「絵による自他 紹介」	
	仲間づくり・ 絆づくりに 資する力	(グループワーク等による仲間づくり)							
	自治集団 づくりに 資する力						「マナーブック づくり」	「自分らしさと その人らしさ」	運動会を盛り上 げよう
	規律性				「オリジナル ボールゲームを 発明しよう」				バスに乗ろう
	道徳性								
	相談・支援を 求める力	「わたしのまわ りには…」		「自らの課題や 問題を解決す る」					

※この一覧表は平成27年3月現在のものです。今後更新していく予定です。

表7 特別活動プラン一覧（状況による選択）

状況	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校
クラス開き			入学時の集団づく りとトラブル防止	集団活動を柱とし た活動プラン
宿泊行事		宿泊行事を柱とし た活動プラン		
学校行事		文化的行事を柱とし た活動プラン	生徒会活動を柱とし た活動プラン	運動会を柱とした活動 プラン
雰囲気が良くない	学級会を柱とした 活動プラン			
特色ある取組	異学年交流を柱とし た活動プラン		ボランティア活動 を柱とした活動プ ラン	校外活動を柱とし た活動プラン

※この一覧表は平成27年3月現在のものです。今後更新していく予定です。

「いじめ未然防止プログラム」について

イ 利用上の留意点

「授業プラン」や「特別活動プラン」の一覧表のプラン名称をクリックすると、プラン内容を見ることができます。利用方法は、学校において11の資質・能力の中から、自校の児童生徒に育む必要があると考えられる資質・能力を検討し、その結果を基に「授業プラン」から選択して実施したり、また、クラスの実態や時期に合わせて「特別活動プラン」を選択して実施したりするなど、学校の実情に合わせて利用してください（図2）。

また、プランをそのまま用いるだけでなく、学校の現状に合わせたアレンジを加えて実施することで、より現状に即した形で実施することができ、大きな効果が期待できます。

各プランを実施する前に、学校やクラス、児童生徒の実態を十分にアセスメントした上で、意図的・計画的に活用してください。

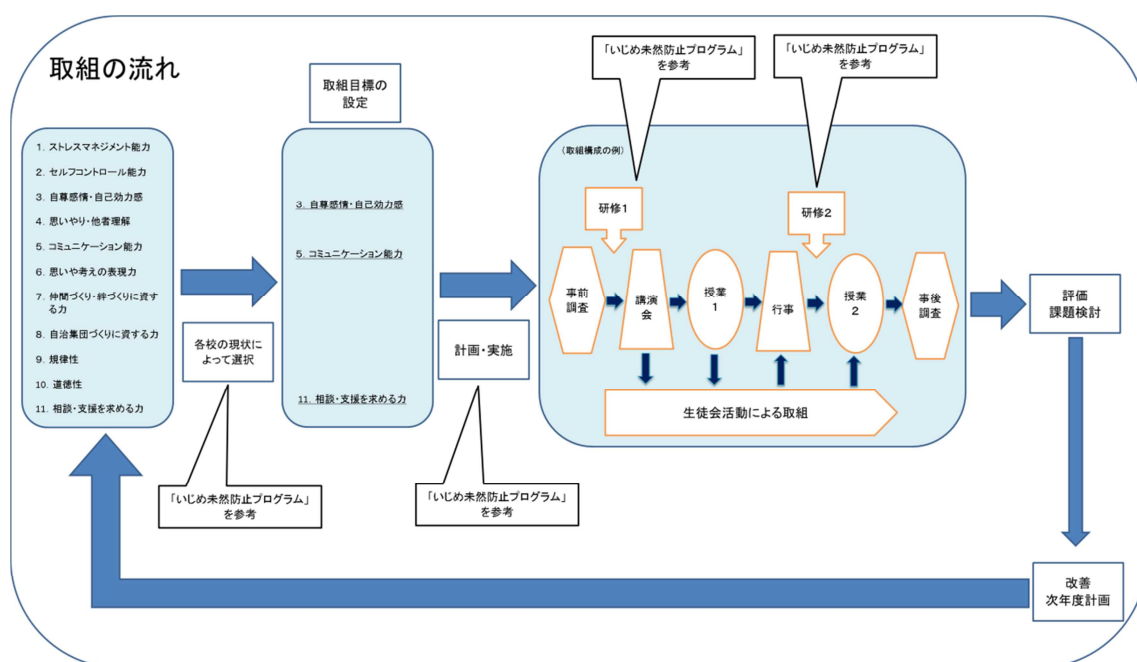


図2 利用方法の例